

(2) Japanese Patent Application Laid-Open No.9-107700 (1997)

“Invention of Loan Secured on Intellectual Property Including Patent and Management Technique Thereof”

5 The following is a translation of an extract relevant to the present application.

 The present invention is related to performing a secured loan and a management technique thereof.

 In the present invention,

10 (a) A loan is performed on the security of intellectual property including patent pending. This applies to all performances and managerial tasks.

 (b) A procedure for how the party that offers a loan and the party that obtains a loan deal with a loan amount determined through a valuation process is established. Then the procedure is developed and put to practical use.

15

②

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-107700

(43) 公開日 平成9年(1997)4月22日

(51) Int. Cl.
分類不能

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平7-177861

(22) 出願日 平成7年(1995)5月26日

(71) 出願人 591226128

國分 倫任

神奈川県相模原市東瀬野辺4-14-20

(72) 発明者 國分 倫任

神奈川県相模原市東瀬野辺4-14-20

(54) 【発明の名称】 特許等知的所有権を担保とする融資及びその管理技術の発明

(57) 【要約】

【目的】 近年経済活動の停滞が激しく、社会生活向上の機運も見られない。これらを打破し活性化の道を開いて行かぬ事には、ますます暗い世界に落ち込むばかりである。知的所有権の実施は人間の生活の革新や改革、それに文化生活の向上に役立つものが多くある。しかし実際の実施に到る迄には、活動資金面の潤達がうまく行かぬケースが多い。そこで本特許は資金活用側と提供側とが円滑に行動し、成果を得る為に、その活性化の為の管理技術を発明し、特許出願し、これをベースに一般化活用を図るものである。

知的所有権の成果の活用と融資実行管理図

項目	融資実行管理手続	利便者区分
項目1	知的所有権を担保とする融資実行手続	知的所有権者個人・企業
項目2	権利取得後と権利行使、命懸けの権利行使	個人・法人・団体・機関
項目3	同じ権利取得後と権利行使、命懸けの権利行使	融資実行側と提供側
項目4	権利取得後と権利行使、命懸けの権利行使	融資実行側と提供側
項目5	権利取得後と権利行使、命懸けの権利行使	融資実行側と提供側
項目6	権利取得後と権利行使、命懸けの権利行使	融資実行側と提供側
項目7	権利取得後と権利行使、命懸けの権利行使	融資実行側と提供側

【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の事項を内容とする、担保融資の実行とその管理技術の発明である。

(イ)．出願中のものも含む知的所有権を対象にし、これを担保に融資を実行する。全ての実行、管理業務に適用する。

(ロ)．評価のプロセスを経て決定された融資額に関し、融資を受ける人及び融資を行う人の対処方法を手順化しこれを開発、発明として有効活用する。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この考案は、あらゆる経済、社会、産業活動上発生する知的所有権の有効活用に適用出来る

【0002】

【従来の技術】従来、知的所有権を使用して産物される製品や、その事業利益結果で、権利を対象のものはなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】これは次のような問題があった。

(イ) 製品が完成し、それを事業生産活動として利益結果を出すには、長期間を要するものが多く本当に役立つのに時機が合致せぬ事による失敗になる事も多かった。

(ロ) 発明である為、未知の開拓に要する資金調達がうまく行かず、埋もれる案件も多かった。

本発明は、これらの問題解決のためになされたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】

(イ)．出願中であっても、その知的所有権の活用が有効な成果を生むものであると融資を受ける側と融資を実行する側、双方の評価の一致をみた時、融資の実行をする。これで開発準備段階から円滑な資金調達が出来る事により、経済の利益造出に寄与する。

(ロ)．技術的には知的所有権保有者と貸借する人又は購入する人との間に締結される契約書に記載される金額、あるいは、貸借料から評価される借入支払額などに

より融資額を決定しそれを実行する。これらは特許権（出願早々から有効活用）など早期の効果の発揮に道を開くものである。

本発明は、以上のような構成よりなる

【0005】

【実施例】実施に当っては、次の手順にて行い円滑な管理を推進する。

(イ)．知的所有権の活用に当り、その評価を高いものと融資側が評価した時点で速やかに締結される融資契約。

(ロ)．資金活用側の積極的知的所有権の活用発揮とそのデスクロジャー（公開）。

【0006】

【発明の効果】これは従来の有価証券担保、不動産担保融資の硬直化した面を一層の刺激を与え、経済の活性化を進める役割を持つ。

(イ) 新たな融資技術の開拓を生み資金の有効活用を図り経済活動の活性化につながる。

(ロ)．知的所有権の活用は、社会、経済面の革新や改革を促進し資金借用の利用人と融資実行側共に社会への貢献を通し相互の事業利益を保有出来る。

(ハ)．経済活動が活性化される事により、更に創造活動も刺激され新たな知的所有権の取得活動が活発化する。

(ニ)．これらは知的文化水準の向上や、産業製造技術革新の活動を活発化させ、日本のみならず世界人類の繁栄に貢献することとなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 知的所有権担保の融資管理技術の機能図。

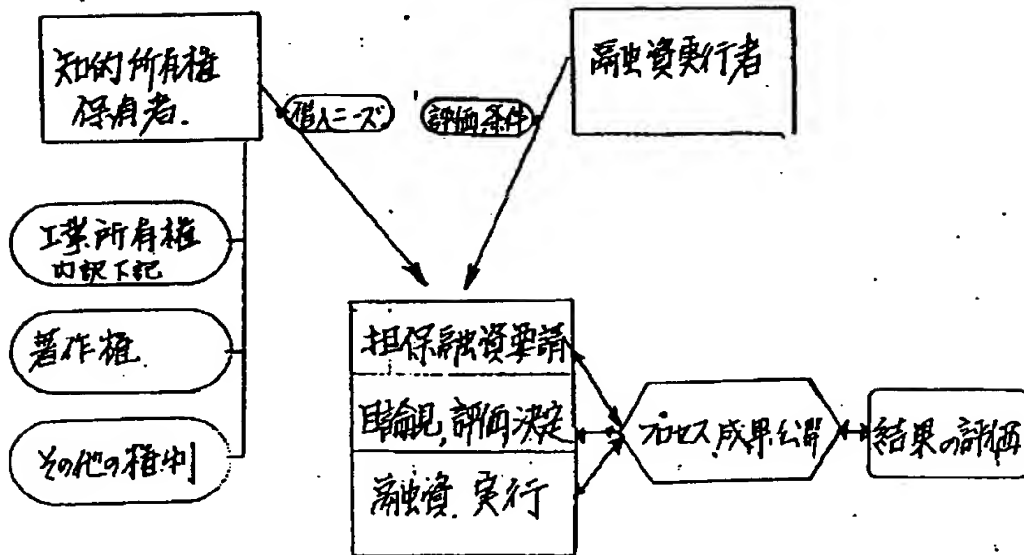
【図2】 知的所有権の効果目論見と融資実行管理図。

【符号の説明】

- 1 知的所有権者の借入ニーズ
- 2 借入活用後の展開目論見
- 3 融資側前提条件整理
- 4 権利保有者の事業収入計画
- 5 契約締結と融資実行
- 6 実行後のフォローアップ
- 7 結果の総合評価、まとめ、

【図1】

知的所有権担保の融資管理技術の機能図



内容 { 特許 (特許中給与), 実用新案, 意匠, 商標, 商号,
不正競争防止, 原産地表示, 又は単産地名等 }

【図2】

知的所有権の効果目論見と融資実行管理図

項目	融資実行管理手続	利便者区分
項目1	知的所有権担保の融資希望 理由申込み	知的所有権者の借入ニーズ
項目2	権利実行具体化した時の収益、効果等目論見作成	借入活用後展開目論見
項目3	以上に対する融資側の評価と 融資条件の設定	融資側前受条件整理
項目4	権利活用による手附金契約金 ロイヤリティ払い 金入金見込を前提とした返済計画などの	権利保有者の事業計画
項目5	革新性改革などの効果の度合、融資契約と その後リスク管理のための 融資実行手続	契約締結と融資実行
項目6	権利活用増進のフォローアップ及び権利売却時返済	実行後のフォローアップ
項目7	更に発展する権利創出活動と業績向上の対策	結果の総合評価のため

BEST AVAILABLE COPY